

認められる喜び 関わる喜び 高まる喜び



早通小だより

ホームページ <http://www.hayasho.city-niigata.ed.jp/>

学校だより
新潟市立早通小学校
第4号
令和5年9月25日

住みやすい町

校長 岡田 義則

5月に2023年度新潟県版の「住みこちランキング」が発表されました（大東建託調べ）。「住みこち」については、20歳以上の男女が現在の地域を全体として評価するものだそうです。

結果は、第1位は新潟市西区、2位は新潟市中央区、3位は北蒲原郡聖籠町と続きます。我が江南区は何だったのでしょうか。結果は6位（昨年度は5位）。10位圏内には新潟市の他の区もランクイン。市外であれば、見附市や長岡市が入っています。江南区は「住みこち」の良い町なのですね。

ところで、「地域福祉計画・地域福祉活動計画」をご存でしょうか？

「地域福祉計画」とは「支援を必要とする地域住民を地域全体で支え、だれもが住み慣れた地域で、その人らしい自立した生活が送れるようなしくみをつくる行政計画」のことです。

「地域福祉活動計画」という計画もあります。こちらは社会福祉協議会が呼びかけて、住民、地域において社会福祉に関する活動を行う者、社会福祉を目的とする事業（福祉サービス）を運営する者が相互協力して策定する地域福祉の推進を目的とした民間の活動・行動計画です。

この二つの計画は区と区社会福祉協議会の協働により計画を策定しています。適宜見直しを行いますが、現在進行している計画は令和8年までの6年間の計画になります。この計画は地区別の計画になっていて、当校の地区は「早通小学校区」になります。地域の目標は以下に原文のまま示します。

隣近所が助けあい声をかけあう、明るく笑顔で多世代交流のあるまち！

その方針は3つ示されています。詳しくは右QRコードから見ることができます。

- 1 あいさつで交流のあるまちをつくろう
- 2 安心・安全のネットワークを作ろう！
- 3 子どもたちが健やかに育つ地域を作ろう！



9月14日には上記計画に関する座談会が開かれ、地域について、それぞれの立場から意見交換が行われました。

早通小学校地区では、小学生が安心・安全に暮らせるように体制を整えていただいています。先日の強盗犯の時の迅速な対応がその一例です。一方、子どもも地域の一員としての活躍を期待されています。特に上記の「2 安心・安全のネットワークを作ろう」という方針では中学生に「ジュニアレスキュー」として活躍が期待されています。今年度、中学校では、6月に区役所と消防署と協力して、心臓マッサージやAEDによる救命法について学んでいます。

地域の方からは、早通小の子どもは「挨拶を良くしてくれる」「卒業生の挨拶も良い」というお話をいただいています。挨拶は地域のコミュニケーションを活性化します。加えて、防犯効果もあると言われていています。不審者に対して自然と警戒心をもつことができるからだそうです。子どもは地域の宝です。地域を活性化するエネルギーを持っています。この宝を保護者、地域の皆様と安心・安全のもと、大切に磨き上げていきたいと思えます。引き続き、ご協力をお願いします。

自然教室の思い出

新潟県少年自然の家



野外炊さん



カヌー体験

自然教室でがんばったことは2つあります。1つ目は、野外炊さんの釜場係です。倉庫からたくさん薪を持っていきますが、砂地を大量の薪を持って歩くのが大変でした。2つ目は、釜の火おこしです。釜の近くは熱かったり目が痛くなったり、薪の置き方が大変だったりしました。

自然教室でがんばったことは、館内フォトオリエンテーリングです。写真を見て文字を探すのはとても楽しかったです。活動班の人たちと協力して探すのは、とても盛り上がりました。一位になって、暗号も解け、賞状をもらった時は、達成感でいっぱいでした。キャンプファイヤーの司会も綺麗な炎の前で、やり遂げました。

令和5年度 各部の取組

自分の考えを広め、深めるために伝え合うことができる子どもを目指して

学力向上部主任

自分の考えをもち、他者と伝え合う。教室には多くの仲間がいます。授業で自分の考えを他者と伝え合うことで、他者の考えにも触れ、自分自身の考えが確かなものになったり、強化されたり、新たな視点が加わって広がったりしていきます。そこで、学ぶ楽しさを味わうことができます。iPadを活用することを通して、自分の考えやその変化を捉えながら、「自分の考えをもち、考えを広め、深めるために伝え合うことができる子ども」を目指していきます。

自分や友達の良さを認め、助け合う子を目指して

豊かな心・生活指導部主任

互いの良さに目を向け、認め合い、自己肯定感を高めることができるような伝え合いの場を意図的に計画・実践します。また、たてわり班をもとにした清掃活動や児童集会、ひまわりタイム等の活動を通して、異学年交流による児童の関わりがより深まるようにしています。今後も自分の思いや考えを受け止めてもらえる温かく安心できる学校の風土づくりに取り組んでいきます。

多様な学びを保障する特別支援教育を目指して

特別支援教育部主任

「学習者」が主役という「学びのユニバーサルデザイン (CAST)」の考え方をもとに、「早通小UDL」の見直しを行いました。子どもに様々なオプションを提示し、自らの学びに適した学習方法を選択・決定できるように支援しています。個々の特性、教育的ニーズに応じた指導・支援を行い、より一層、子どもたちが学校生活に適応できることを目指します。

「自分の体は自分でつくる」ことができる子を目指して

生活習慣・体力づくり部主任

休み時間や体育の時間に、様々な運動に親しむことができるように「体力向上パンフレット」を作成しました。また、元気アップ週間を年3回実施します。ロイロノートを活用し、自分で放課後の時間の使い方を考えることで、「自分の体は自分でつくる」ことができる子を目指します。今後も家庭と連携しながら、子どもたちの健やかな体づくりを行っていきます。